

週日の説教

金 大烈 神父 2011年3月3日(木)

《本当に見えていますか？ -イエス様が開いてくださる心の目で-》

今日は、少し聖書の勉強をしたいと思います。聖書の中の「見る」という言葉は、私たちが普通に使う「見る」と意味が少し違います。聖書の中の「見る」という言葉には、「知る、分かる」の意味があります。しかも、ただ分かるだけでなく、関わりの中で分かることを意味します。天を、地を、そしてその間に生きている生き物の真の姿を捕らえるという意味を持っています。

さあ、今日の福音(マルコ 10・46 - 52)では、目の見えない人がイエス様に「主よ。ナザレのイエスよ。私を憐れんでください。」と叫んでいます。そして人々が、「うるさいからやめなさい」と言って黙らせようとしています。しかしその人は、もっと大きい声で叫びます。その声が聞こえたイエス様は、止まって、「その人呼びなさい」とおっしゃいましたね。そしてその人に「何を望んでいるのか」と聞きます。するとその人は、「目が見えるようになりたいです。」と答えます。

「目が見えるようになりたいです。」というのは日本語だけの訳です。実際には、「また見えるようになりたいです。」というのが正しい意味です。なぜ「また」という言葉が抜けてしまったのか分かりませんが、とにかく、この人は生まれつきの盲人ではなかった、ということです。何かの事故によって、目が見えなくなってしまったのでしょう。

今日の福音の最後では、この人は目が見えるようになり、イエス様に従い、ついて行きましたね。ここには結構深い意味が隠れています。もし私たちが、イエス様によって目が見えるようになったら、何をするでしょうか。目が見えなくなり、いつも不便さを感じていて、ある日突然目が見えるようになったとしましょう。いくら感謝の心があっても、全然知らない人について行きたくはないでしょう。他のことをしたいでしょう。家族にも見せたいでしょう。しかしこの人は、思いきってイエス様に従いました。それは、自分の命、自分の視力はどこから来るのか、はっきり分かったからでしょう。

信者である私たちもこういう面で、振り返ってみる必要があるのではないのでしょうか。私たちは本当に見えているのか、目の中に映っているものが本当に真実であるのか、見えるものにだまされているのではないのか、本当に相手の心を分かっているのか、それを考えてみれば、反省することになると思います。大体私たちは、五感（見ること、聞くこと、味わうこと、匂いをかぐこと、触れること）によって、全てのことを判断しようとしています。しかし、それを100パーセント信頼しないでください。心の目が開いていなければ、五感によって分かるものは幻にすぎないのかもしれないのですから。イエス様が開いてくださる心の目で、自分の人生、この世を見ようと努力すること、そういう自分を求めようとする必要があるでしょう。本当に悲しい条件の中で生きているにもかかわらず、喜びの顔をしている人がいます。その人は、たぶん神様が許した目で見ているのでしょう。だから喜びを見いだしているのでしょう。

ありがとうございました